

こんにちは! 農業普及所です



第117号

県中農林事務所須賀川農業普及所
須賀川市花岡34
TEL (0248)75-2180
75-2181
FAX (0248)72-8331
E-mail sukagawa.af02@pref.fukushima.lg.jp

園芸産地を支える担い手を育てていきます

当地方は特に「きゅうり」「日本なし」において、県内でも有数の園芸産地です。しかし、平成26年度の生産者数は、きゅうりでは11%、日本なしでは7%と減少傾向にあります(右図参照)。

今後産地を維持していくためには、担い手の確保・育成と栽培技術の向上が課題です。そこで当普及所では、若手生産者を中心に栽培技術の向上を図り、さらに新たな栽培者を誘導するため、以下の研修会を開催いたしました。今年度も、担い手の育成を目指し、研修会を開催いたします。

また、農業総合センター農業短期大学校で開催している新規就農者を対象にした研修を紹介します。



図：平成22年と平成26年の生産者数比較(単位：人)
(JAすかがわ岩瀬)

◆ きゅうり若手栽培者スキルアップ研修会

病虫害防除と収量・品質アップのポイントについての研修会を平成27年2月5日、JAすかがわ岩瀬きゅうりん館にて開催し、農業者16名が参加しました。参加者からは、栽培に関する情報を得ることができた等の声が聞かれました。

今年度は6月中旬と9月に、定植後の栽培管理等を現地で学ぶ研修会の開催を予定していますので、ぜひご参加ください。



◆ なし樹体ジョイント栽培・ぶどう新短梢栽培研修会

「なし樹体ジョイント栽培・ぶどう新短梢栽培」は早期成園化と作業の省力化が図れる新技術です。須賀川地域では未だ導入が少ない状況ですが、苗木育成など技術的課題を克服し普及を図りたいと考えています。

そこで平成27年2月4日に郡山市熱海町の谷代栄一氏園で研修会を開催し、管内から農業者18名が参加しました。谷代栄一氏からは「須賀川地域であれば気象条件が良いので、是非皆さんで取り組んで自分の技術としてください」とのことでした。今年度も産地の担い手を対象に7月に研修会の開催を予定していますので、ぜひご参加ください。



◆ 農業総合センター農業短期大学校研修

新たに農業を始めたい方の技術習得のために、きゅうり・トマト・いちごから一つの品目を選び1年を通して栽培管理を学びます。みなさんの近くに、農業で生計を立ててみたいと考えている青年がいましたら紹介してください。

【品目(平成27年度)】

- ・きゅうり「夏秋5～6月播種」
- ・トマト「雨よけ2～3月播種」
- ・いちご「高設栽培」

Let's チャレンジ!!

頑張っている農業者を紹介します!

今回から、須賀川農業普及所管内で活躍する農業者の取り組みを紹介していきます。

● 設楽哲也さん（須賀川市西袋）

就農して8年目の設楽さんは、きゅうり（防虫ネット被覆栽培）20a、ねぎ20a、山菜5a、水稲7haの複合経営を両親と3人で営んでいます。

第55回福島県農業賞を受賞した「須賀川4日クラブ」のメンバーとして、栽培技術や経営力向上のための勉強会に参加したり、消費者を対象とした食育活動や農家研修で農業高校の生徒を受け入れたり、様々な活動に取り組んでいます。



また、NPO法人“OYAKODOふくしま”の理事として、子供たちに農業を身近に感じてもらうために親子を対象とした農業体験を行っています。さらに今後は、収穫した農産物を使用した料理教室や、畑での授業も行う予定です。

「農業」を子供たちの憧れの職業にすることを目標に、よりおいしい農産物をつくることや、農業の魅力を発信する活動に力を入れて取り組む設楽さんを、普及所でも応援していきたいと考えています。

● 玉川村ブルーベリー生産組合（玉川村）



玉川村ブルーベリー生産組合が開発したワイン

玉川村ブルーベリー生産組合は14名で約2haのブルーベリーを栽培しています。

組合長の佐久間悦男さんは、ブルーベリー栽培で所得を確保するために生食用販売以外の道を探っていました。そのような中、昨年、ワインを委託生産して平成27年2月27日に試飲会を開きました。

約40人が試飲会に参加して、風味豊かなワインを楽しみました。今後、スパークリングワインの生産も予定しているそうです。

普及所も玉川村ブルーベリー生産組合のお手伝いができればと考えています。

鳥獣被害防止の考え方

捕まれば被害がなくなると考えていませんか？
鳥獣被害対策には正しい順序があります。

順序が逆になって
いませんか？

① 加害獣の特徴を知る

まずは相手のことをよく知ること、加害獣の特定はできていますか？本当に加害獣について正しい情報をもっていますか？あやふやな情報をもとにした対策は効果がなく、むしろ被害を増やすこともあります。

② 農地周辺や集落内の【餌】をなくす

なぜ自分の畑が被害にあったのか？自ら鳥獣を呼び寄せていませんか？畑周辺に未収穫物や残さ、集落内に放任果樹等がある場合、鳥獣に餌付けしているのと同じです。そうした【餌】は必ず除去しましょう。併せて、田畑周辺のヤブを刈り払って見通しをよくする（身を隠す茂みをなくす）ことも鳥獣被害防止に有効です。

③ 電気柵等の侵入防止柵の設置を行う

侵入防止柵にはトタン板やワイヤーメッシュ等による物理的防御柵や、電気柵のように通電することで、忌避効果を示す心理的防御柵があります。ただし、柵に隙間が生じている、漏電している等、管理が不十分の状態だと「ただの柵」になってしまうので注意が必要です。

④ 捕獲する

①～③の対策を行い、捕獲することで被害が減少します。集落内に対策をとっていない田畑や未収穫物・残さがあると、捕獲は非常に難しくなります。まずは自分でできる対策を取りましょう。

し
か
し！

個人で行うには必ず限界があります。集落ぐるみで、放任果樹等の除去、ヤブの刈り払いを行う必要があります。一度、地域住民同士の話し合いを行い、集落ぐるみの鳥獣被害対策に取り組みましょう。

このカメムシにピンときたら普及所へ！！

ここ数年、管内でイネクロカメムシの発生が確認されています。
以下のような症状が特徴です。

- ① 6月下旬頃から葉に食害による横断跡が見られます。
- ② 7月頃から畦畔際でイネの葉が枯れ始めます。
- ③ 出穂後畦畔際を中心に、イネの穂が白穂になります。

①

②

③



イネに潜む
イネクロカメムシ
の様子

農作業事故が多発しています

平成26年は福島県内で13件の農作業死亡事故が発生しました（平成25年は5件）。65歳以上の高齢者によるトラクター等の転倒・転落事故が多発しています。

【原因は危機感の低下です】

「次の作業もあるから早く終わらせたい（気持ちのあせり）」
 「毎年やっているからこれくらい大丈夫だろう（長年の慣れ）」

～平成26年度須賀川普及所管内で発生した事故～

事例1 (5月)	エンジンをかけたまま圃場を離れ、土手で滑ってしまい代かき機に両足を巻き込まれてしまった(70代男性)。
事例2 (10月)	コンバインをバックさせ、無理に畦畔を乗り越えようとしてコンバインが横転し足を挟まれてしまった(60代男性)。
事例3 (10月)	コンバインをバックさせ、方向転換する際に畦畔に乗り上げバランスを崩し、コンバインの下敷きになってしまった(50代男性)。

～事故防止のポイント～

- ・ 次の作業はエンジンを切ってから
- ・ 作業に適した服装
- ・ 日が沈む前に帰る

平成27年産牧草・飼料作物のモニタリング検査について

当管内で生産される27年産牧草・飼料作物のモニタリングは、下表の作物区分・利用区分ごとに実施します。モニタリングにより流通・利用の可否判断が実施されるまでは、対象となる全ての牧草・飼料作物について流通・利用の自粛をお願いいたします。

作物区分	利用区分	主な種類	検査点数	対象地域	判断方法	
永年生牧草	青刈り利用	オーチャードグラス、チモシー、リードカナリーグラス、イタリアンライグラス(経年利用)等	農家(ほ場ごと)	除染が完了したほ場	個別判断	
	サイレージ・乾草利用					
単年生飼料作物	イネ科長大作物	飼料用トウモロコシ、ソルガム類	1市町村あたり5点	該当作物の作付がある市町村	地域判断	
	イネ科飼料作物	青刈り利用				イタリアンライグラス、ライ麦、エン麦、ヒエ等
		サイレージ・乾草利用				
	稲発酵粗飼料	—				
稲わら(畜産利用に限る)	—					
稲ソフトグレインサイレージ(稲SGS)	—	—	生産ロットごと	—	個別判断	

◎ 稲ソフトグレインサイレージ(稲SGS)の検査を開始します

稲SGSは米の全量全袋検査の対象外であるため、牧草・飼料作物のモニタリング検査により利用の可否を判断しません。

◎ 永年生牧草の利用判断について

・ 除染(草地更新)が完了した牧草地で生産された永年生牧草(オーチャードグラス、チモシー、マメ科牧草等)については、個別にモニタリング検査を実施し、流通・利用の可否を判断します。ただし、24～26年度のモニタリング検査で既に利用可能となった牧草地については、27年度の検査は実施せずに利用することができます。

・ 27年度のモニタリングの結果、30～100Bq/kgとなったほ場については2番草以降の再生草について、モニタリング外検査を行い利用の可否を判断します。(酪農の場合、団体の自主検査により確認)

モニタリング検査へのご協力をお願いします。

転入者紹介	職	氏名	担当	旧	所	属
	主査	佐藤 正武	野菜特産	会津農林事務所	喜多方農業普及所	
	技師	佐野 真知子	果 樹	農業総合センター	果樹研究所	
	技師	渡邊 滉士	作 物	新規採用		